

創立 70 周年

平成 30 年 2 月 1 日

立花中だより

強く 正しく 優しく

校長 尾知山光郎

始業式の式辞（要旨） ～まとめをして、おとなへの準備をする 3 学期～

「成人の日」は「おとな」になることの意味を考える国民の祝日。尼崎市の「成人の日のつどい」に、立花中卒業生の奥村幸治先輩が招かれ、新成人を激励した。3 学期は 1 年間や 3 年間のまとめ（復習）をする時期。まとめをする授業の主役は先生ではなく生徒諸君で、主体的に復習する意識を持とう。「こども」はしたいことをし、「おとな」はしなければならないことをする。中学生期は「こども」から「おとな」に変わる時期で、「おとな」になる準備をする「冬」のような時期。3 学期は寒い時季だが、体と心を鍛え、知や技を磨き、力を蓄え、成長するために大切な準備をする時季として、過ごそう。

長距離走記録会 ～体と心の持久力を伸ばし、計画性・自律性を培う～

学年別長距離走記録会を 12 月 20 日～22 日に快晴の下で行いました。長距離走で培われる持久力は体力としても精神力としても大人になるために必要な力で、仲間との切磋琢磨や自己ベストをめざす努力が成長の原動力となります。この力は学力をはじめ、あらゆる力を高める際に求められる力です。記録会では、苦しさに耐えて力走する姿や走っていない生徒が力走する仲間を励ます姿から、「強く生き、優しく関わる」立中生に近づいていることが確かめられました。

各学年の男子 4000m・女子 3000m のベストタイムと走者は、次のとおりです。校内最速記録（者）

1年	男子	14 分 50 秒	山下慶馬	女子	12 分 35 秒	小野山七海
2年	男子	14 分 48 秒	西田就一	女子	12 分 50 秒	次本琉乃
3年	男子	14 分 15 秒	芝田一輝	女子	13 分 02 秒	昌 琴音

表彰 ～県中学校総合文化祭特選・市中学校新人駅伝優勝など～

県・ジュニアバスケットボール選抜選手として全国都道府県対抗大会等に出場決定 田村飛翔（2 年）

県・中学校総合文化祭【美術部門特選】石橋星奈（2 年） 【書写部門特選】塚尾廉太（3 年）

阪神・中学校室内水泳記録会【女子 400m3 位】溝口悠夏（1 年）

市・新人駅伝【男子総合優勝】山下慶馬（1 年）・榊谷佳生（2 年）・伊地智敦士（2 年）・南口海（1 年）・

嘉勢悠夏（2 年）【区間 1 位】山下・伊地智【区間 2 位】榊谷・南口【区間 3 位】嘉勢

市・文化発表会書道展【入選】【毛筆】次本琉乃・河野ちせ・平原さやか・細田福音（以上 2 年）

和泉蘭・野田舞香・橋本雛子・辻本さくら（以上 1 年）

【硬筆】佐藤夏希・本澤倅・杉山駿介・中村杏・荒川華（以上 1 年）

市・文化発表会美術展【入選】城田響楽・小松原裕斗・白濱真人・鍛示笑香・児玉遥飛・野田優太・

藤代修斗・上畑志穂梨・洲鎌美鳴・辻井明音・平尾智音・松岡隼大・

竹之下奏・西川愛生・西谷采恵・山本玲華・楠原蒼馬・田中実咲紀・

西野ゆま・本澤映月・由良宥似（以上 3 年）

全国学力・学習状況調査の結果から

昨年4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果から本校3年生の状況の一部を報告します。ただし、この結果が示すのは、本校生徒の一部の、また、学力の一部分であり、全校生徒の学力全体についての評価ではありません。文中、国とあるのは全国平均、県とあるのは兵庫県平均のことです。

学力調査の結果(概要)

国語 A (主として知識)

得点分布は国・県と同様。正答者数(比率)は、31問中29問正答が最多で、10問以下はない。平均正答率は国・県とほぼ同じ。昨年度比で国との差が3.6ポイント改善しプラスに転じた。学習指導要領の領域等や評価の観点ごとに見たところ、いずれにおいても、国・県と同等レベル。

国語 B (主として活用)

得点分布は国・県と似ている。正答者数(比率)は、9問中7~8問が多く、0問はない。全問正答も少ない。平均正答率は国・県とほぼ同じ。昨年度比では国との差が2.3ポイント改善した。課題は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「言語についての知識・理解・技能」。

数学 A (主として知識)

得点分布は、正答者数(比率)で36問中30~34問正答が国より多かった。20問以下が少なく、平均正答率は国を8ポイント余り上回った。昨年度比では約10ポイント上昇した。学習指導要領の領域等、評価の観点、問題の形式のいずれの分類でも国を約5ポイント上回った。

数学 B (主として活用)

得点分布は、国・県(15問中5問正答が最多)と異なり、11問正答が最多。5問以下や14問以上が少ない。平均正答率で国を約6ポイント上回り、昨年度比で約10ポイント上昇した。領域「図形」で約9ポイント、観点「数学的な技能」で10ポイント、国を上回った。

生徒質問紙調査の結果(抜粋) ※生徒自身の回答に基づいています

国と比べて得点が高い項目ー数学への関心等

国と比べ低いー学習習慣、生活習慣、国語への関心等、総合的な学習への関心等、言語活動・読解力

昨年度の本校と比べて得点が高い項目ー数学への関心等

昨年度の本校と比べて得点が高い項目ー生活習慣

本校の特徴「(どちらかといえば)あてはまる」率(%)が国・県より10ポイント以上少ない項目・率

「授業時間以外に、普段(月~金曜)、(塾での学習を含め)1日『2時間以上』勉強している」20

「土曜や日曜など学校が休みの日に、(塾での学習を含め)1日『2時間以上』勉強している」24

「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」37 「運動部活動に参加している」50

「家で、学校の授業の復習をしている」31 「家で、学校の授業の予習をしている」16

「地域の行事に参加している」18 「地域などでボランティア活動に参加したことがある」25

課題

- ・学習習慣や望ましい生活習慣の確立が必要な生徒が多いので、保護者の理解と協力の下、生徒が将来、習得した力を活用して生きるため、夢・志や目標を定め、それに向かって計画を立て実行する力の基盤となる、良好な生活習慣・学習習慣を身に付けられるよう指導することが必要である。
- ・読解力や表現力を高めるため、教科や総合的な学習における言語活動を工夫改善する必要がある。
- ・社会性や協調性を培い、自らの集団・地域をより良いものにする力を育成する活動が必要である。
- ・教育活動や教育環境を改善・改良することや教職員の指導力・組織力を高めることが必要である。